

事前研修会

- ・第 1 回 令和 6 年 11 月 26 日 (土) 「アイヌの人たちの文化等のこと」
- ・第 2 回 令和 6 年 11 月 3 日 (日) 「ししゅも祭り参加」
- ・第 3 回 令和 6 年 12 月 11 日 (水) 「インドネシアのこと」
- ・第 4 回 令和 6 年 12 月 26 日 (木) 「白糠町のこと」

令和 6 年度青少年海外研修事業

- ・日 時 令和 7 年 1 月 9 日 (木) から 令和 7 年 1 月 15 日 (水)
- ・参加者 11 名 (中学生 6 名、高校生 2 名、引率者 3 名)
※ 参加生徒の内訳は、白糠学園 2 名、茶路中学校 2 名、庶路学園 2 名、白糠高校 2 名
- ・場 所 インドネシア (バリ島)
- ・事業内容 交流事業、視察研修事業

1 日目：1 月 9 日 (木) 6 泊 7 日の研修へ出発

1 日目は、インドネシア行きの便の都合上、成田までの移動となりました。保護者、各学校の先生方が集まり見守る中、茶路中学校 2 年生の對木亜香さんが参加者を代表して出発式で、感謝の気持ちを忘れずに研修に取り組み、事前研修で学んだことを発信するとともに、外国の空気に触れて視野を広げたい、と挨拶を行いました。その後、15 時 5 分発の飛行機で羽田空港へ移動した後に、バスで成田空港行きのホテルまで移動しました。初めて飛行機に乗る生徒もおり、通常よりも揺れがひどかった飛行機に驚いた生徒もいたようです。明日のインドネシアへのフライトにわくわくしながら、1 日目を終わりました。



この日の主なできごと

- ・出発式
- ・釧路空港発
- ・羽田空港から成田空港周辺のホテルへ移動

2日目：1月10日(金) インドネシアへ向けて

2日目はついにインドネシアに向けて出発の日です。出国審査等のため、起床時間は早めに設定しておりましたが、日本のご飯はしばらく食べられないということで、朝からたくさん食べており、全員元気に成田空港へ移動をしました。全員、初めての海外ということで、国際線のターミナルの広さに驚いており、すでに日本ではないみたいという言葉も聞かれました。手荷物審査、出国審査も無事に終え、インドネシアルピアへの両替をしたり、免税店等を見学したりして、11時発の飛行機でインドネシアへ向けて成田空港を飛び立ちました。お昼ご飯は機内食となり、英語で尋ねられることに一生懸命答えている様子が伺えました。飛行機が遅れたこともあり、現地時間の18時ころ（日本の19時ころ）に到着予定が、19時近くに到着。入国審査は自動ゲートにてスムーズに進んだものの、入国ビザの購入に長蛇の列ができていましたが、全員無事にすべての手続を終えることが出来ました。

全ての手続を終えたころには、時刻は20時となっており、全員お腹がすいたと言いながら辿り着いた、夕食会場のインドネシア料理店では、バリダンスの披露があり、バリに来た空気をすぐに味わうことが出来ました。

ホテルに到着したのは、21時30分頃となり、移動の疲れも見えましたが、ミーティングを行い、明日からの研修に備えすぐに就寝となりました。



この日の主なできごと

- ・インドネシア（バリ島）到着
- ・夕食会場にてバリダンスの鑑賞

3日目：1月11日(土) 環境問題に触れる1日

3日目は、インドネシアの環境問題に触れる1日となっております。夜中に雷雨がすごく、目が覚めた人も多かったようですが、全員元気に起床をし、研修に向けて出発しました。

最初の研修地はスウンゴミ山に行き、現地NGO団体のバリライフファウンデーションのフェニさんより、ゴミ山で働く人、その家族の暮らしについて説明を受けました。ゴミ山では男性がお金になりそうなものを拾い換金する働き方をしており、1日働いていても収入は200円くらいとのことに衝撃を受けている生徒が多かったです。バリライフファウンデーションでは、男性が働いている間に、女性や子どもたちに教育やスキルを身に付けさせる取組をしており、裁縫、英語、パソコン等の講師が授業をしているとのことでした。ゴミ山で生活している人たちの住居も見学させていただき、40世帯が一緒に暮らしている現状に日本との違いを生徒たちも肌で感じる事ができていました。

ゴミ山の見学の後は、鹿児島県の大崎町とJICAが開始したプロジェクトで建設された大崎システムを見学しました。分別すれば資源になるという考えがインドネシアには浸透しておらず、ごみ処分場が逼迫している現状を解決するために建てられた施設で、生ごみや植物から堆肥を作成し農家への販売をしているとのことでした。2か所のゴミ処理施設を見学することで、日本の環境やごみ処理がいかに恵まれているのかを再確認する機会となりました。

この日のスケジュールは余裕があったため、ホテル近くのスーパーマーケットに立ち寄り、水やお菓子、家族や友達へのお土産を購入していました。また、一時帰国中であったSEAのチャンドラさんが、ホテルまで生徒たちに会いに来てくれ、少しの時間でしたが、今日の研修や、明日以降の研修箇所等について交流することができました。



この日の主なできごと

- ・スウンゴミ山見学
- ・大崎システムゴミ中間処理場見学

4日目：1月12日(日)世界遺産見学へ

4日目の始まりも雨となりました。晴れていたのは、インドネシア到着日のみで雨季を実感していました。最初の研修地であるタマンアユン寺院に到着したときには雨も上がり、傘のない状態での初めての視察研修となりました。タマンアユン寺院では、ガイドの方から、昔の王国の国寺であったことや、茅葺き屋根の塔について説明を受けました。昔の王国の写真が飾られている建物では、詳しい王国の話聞きながら、インドネシアの歴史についての見聞を深めました。

午後からは、棚田ジャティルイを視察し、白糠では見ることができない田んぼの景色を眺めながら、バリ島独自の水路システムについて説明を受けました。実際に田んぼの中を歩き回り、近くで稲を見ることもでき、とても貴重な体験となったのではないかと思います。

視察が終了したのち、2泊お世話になるマナアースリーパラダイスにチェックインをしました。この宿泊施設は、日本人が創設者であり、環境に配慮して太陽光発電、水の循環、農園の野菜を使用し、生ごみはコンポストを活用して肥料にという、エコホテルになっていました。実際にこちらで働いている日本人スタッフより、建設の経緯や、環境等への思いを聞くことができました。



この日の主なできごと

- ・タマンアユン寺院視察
- ・棚田ジャティルイ視察

5日目：1月13日(月) バリアガ族との交流

5日目は、この海外研修のメインである、バリアガ族との交流の日です。午前中は、グリ

ーンスクールという環境教育に力を入れている学校を見学しました。実際に学校に通学している生徒に案内をしてもらい、学校の理念等を説明してもらいました。少しの時間でしたが、一緒にスポーツをして、楽しい時間を過ごすことができました。

午後からは、トゥガナン村へ移動し、バリアガ族の方々との交流を行いました。到着すると、村の入り口で村長さんが出迎えてくださり、トゥガナン村というのがどういう村なのかを説明していただきました。トゥガナン村は、人口約880人、220世帯が住む村となっていました。トゥガナン村にはたくさんのお祭りがあり、草をもって男性同士が戦うお祭りが1番有名とお話をいただきました。また、トゥガナン村では生まれ変わりを信じており、お祭りも生まれ変わりを表すものとして、繰り返し行われると教えていただきました。また、特産品としてグリーンシンという布が有名であり、グリーンは病気、シンはないという意味で、病気がない＝魔除けという意味がある織物だとのことでした。

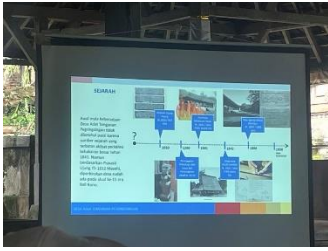
説明を受けたのち、実際に村内を案内していただき、男性、女性で分かれている催事の際の建物や、村の役場の説明をしてもらいながら、実際の交流場所となる集会所へと向かいました。集会所では、村の歴史、伝説、催事、暦等について、スライドを使いながら詳しく説明していただきました。トゥガナン村の建国に関係する伝説として、トゥガナン村の周辺にあった王国の王様が飼っていた馬が逃げ出し、発見されたときには死んでしまっていたが、発見した村民に対して感謝の意を表し、馬が逃げた範囲の土地を与えて、その土地が今のトゥガナン村になったというものがあると教えていただきました。その馬の一部を今でも祀っているという話から、生徒たちからはどういうときにその場所にお参りをするのかという質問がありました。また、トゥガナン村の暦では、3年が1周期となっているというお話から、月の数え方はどうなっているのかという質問もあり、日本とは違う文化に生徒たちはたくさんの質問をしていました。

バリアガ族の方からの説明の後は、生徒たちが準備してきた日本や白糠町の食や文化、アイヌ民族についての発表を行いました。食についての発表の後には、以前に日本の研究者が来た時に、刺身を食べさせてもらってから、バリアガ族の方々も刺身が好きになったというお話や、北海道に行ったら何を食べたらいいというような質問があり、生徒たちからはラーメンがおいしい、やっぱりお寿司がおすすめといった回答をしていました。

アイヌ民族についての発表では、食器について、食べ物について、踊りについての発表をしました。踊りについて発表をした後に、アイヌ協会の方々に協力をいただき、全員で練習をした輪踊りを披露しました。また、今年度は輪踊りのあとに、クリムセ（弓の舞）を庶路学園7年生の天内くんが披露しました。質疑応答の時間では、バリアガ族の方々は、全員が村にまとまって暮らしていることから、アイヌの方々も全員同じ村、町に住んでいるのかという質問や、踊りの詳しい意味、どういう場面で踊るのかという質問をいただきました。また、トゥガナン村ではお祭りが多いことから、お祭りとかで披露するのか、というような質問もいただき、アイヌ民族とバリアガ族の共通点、相違点を考え、見つめなおす充実した時間となっていました。

発表の後は、集まってくださった村の方々と写真撮影をしたり、ガイドの方を交えながらお話をしたり交流をした後に、実際にバリアガ族の方の居住スペースにお邪魔させていただき、どのような生活をしているのかを見学させていただきました。お邪魔させていただいた家は、トゥガナン村の工芸品であるアタ製品作製・販売している方が住んでおり、自宅と工房が繋がっていました。製品の大きさや、編む細かさによって作製期間が異なるとのことでしたが、編んだ後に燻す作業があるため、短いものでも1～2週間ほどはかかるとお話を伺いました。アタ製品を作成している家の後には、最初に説明をしてもらったグリーンシンの工房も見学させていただきました。グリーンシンはダブルイカットという技法で作られますが、この技法はトゥガナン村のほか、日本の織物など、限られた地域でしか生産がされておらずとても貴重なものだと教えていただきました。1枚のグリーンシンが完成するまでには2～3年、長ければ10年くらいと聞き、手作業で作成する大変さを生徒たちも実際に見ることで感じたのではないかと思います。訪問日は、先に述べたバリアガ族の暦のお正月最終日で、翌日から3年に1度のお祭りが開催されるということで、催事の準備で忙しい中、たくさんの方々に発表を聞いていただき、実際に交流をさせていただきました。半日程度の訪問ではありましたが、他の国の先住民族との交流をとおして、自国の文化、アイヌ文化を見直す大変貴重な時間となりました。





この日の主なできごと

- ・グリーンスクール見学
- ・トゥガナン村にてバリアガ族の方々と交流

6日目：1月14日(火) 市街地見学→帰国の途へ

6日目は、市街地を見学した後に、空港へ移動し、日本へ帰る飛行機に乗る日です。実質の研修最終日ということもあり、朝から荷物の整理をしてからの出発となりました。

最初に美術館を見学し、自分のお気に入りの作品を見つけたり、インドネシアの楽器を触ってみたりと、インドネシアの文化に触れていました。美術館の見学の後は、ウブド市場に行き各々買い物を楽しみました。ウブド市場は低下が決まっておらず、自分で値下げ交渉を行い、購入金額を決定する形になっています。慣れない英語を駆使しながら、どれだけ安

くできるかに挑戦をしていました。最後に、バリ島のヒンドゥー教徒の方々が身体を清めるためにいく寺院を訪問し、今回の青少年海外研修事業の全ての行程が終了しました。

最後にホテルに戻り、荷物を整理して帰国に向けて準備をしていると、雷を伴うスコールが。この研修期間中に何度も雨は降っていたため、出発時刻には止むだろうと思っていましたが、くるぶしくらいまで水没していました。ホテルの方も、今までに経験したことはないとのことで、最後に片付けた荷物からサンダルを出したり、濡れない服に着替えたりとあわただしくはなりましたが、忘れ物等なく、2日間お世話になったホテルをチェックアウトし、空港へと出発しました。

空港の前に、ショッピングモールのようなお土産屋さん立ち寄り、最後のお土産を購入しました。空港到着後は5日間お世話になった、ガイドのワンティカさん、通訳をしていただいた岡部さんに、また会える機会を楽しみにしていますと挨拶をして別れました。特にトラブルなく、出国審査も終え、飛行機は深夜の便で時間もあつたため、空港内を散策し、最後のバリ島を楽しんでいました。そして24時30分発の飛行機に乗り込み、成田空港へと出発いたしました。



この日の主なできごと

- ・プリ・ルキサン美術館、ウブド市場、ティルタウンプル寺院見学
- ・デンパサール空港から成田空港へ出発

7日目：1月15日(水) 帰宅の途へ

最終日の朝は、機内で迎えました。日本時間の7時ころに客室乗務員の方がたの朝食の案内で目を覚まし、8時45分に成田空港へと到着しました。入国審査や税関についても何事もなく終え、空港から外へ出ると、バリ島の暖かい空気とは反対の冷たい空気、寒いと言っ

ている生徒が多かったです。成田空港から、リムジンバスに乗り込み羽田空港へ移動をしました。羽田空港ではお昼のお弁当を受け取り、久しぶりの日本のご飯に喜んでいました。

羽田空港を出発し、釧路空港へ到着すると、保護者の方々のほか、たくさんの先生方も出迎えてくださいました。解散式では、白糠高校1年生の菅原君がインドネシアと日本の環境の違いを実感し生活を見直そうと思う、と挨拶をし、研修を締めくくりました。



この日の主なできごと

- ・成田空港から羽田空港へ
- ・羽田空港から釧路空港へ
- ・解散式